

災害支援 2018年7月22日 広島県坂町小屋浦地区 外来 伊藤祐子

朝広島駅に集合してその後海田市駅まで電車にて移動しました。(それ以上は土砂で通行止めのためそこまでしか行けませんでした) 駅を降りてから2台のバスに乗って坂町ボランティアセンターで手続きしてもらったりトイレに行ったり、支給される水や冷えピタなどもらって再びバスに乗って現場近くのスーパー駐車場へ。そこから20分ほど歩いて現地に入りました。



川の橋が半分だけ落ちている状態のところを渡って、小屋浦小学校へ。小学校の校庭には土砂と災害ごみがあふれていました。そこで一輪車やスコップなど持って上まで登って行き、現地のリーダーさんに割り振ってもらって50人前後の人が8グループに分かれて支援に向かいました。私が担当したお家は庭に土砂が入ってしまっていました。高さは30センチほどです。それを家の横の狭い通路から道路に出していく作業でした。一輪車を何とか狭い通路に入れ土砂を一輪車に入れ運ぶ。私は運ばれた土砂を道路に積み上げていくことでした。10分毎に休憩と活動を繰り返し、だらだらと活動しました。(最初から頑張りすぎると続かないし、熱中症になってもいけないのでだらだらするのがいいと昨日参加された方からの助言でした)



匂いはあまり気になりませんでした。お昼休みも十分取って、砂防ダムの見学にも行きました。明治時代にも氾濫したことがあったとの事で記念碑もありました。今回は砂防ダムが崩れて、砂ごと流されたため多大な被害になっています。県連の方の説明では人災ではないかと思っているとの事でした。

橋も鉄骨が流されており、また家が隣の家に突き刺さっていたり、木が丸ごと家の中を突き破ったりと本当に大変な力が働いたことに立ち尽くすのみでした。

現地の方とお話することがほとんどできなかったのですが、お隣の家の前を一生懸命土砂を掻きだしている方に聴くと、自分の家は良かったが、隣は高齢者で自分では片づけができないからと手伝わられていました。



私たちが支援できたのは本当に限られた時間で限られた内容です大切な我が家が土砂によって壊されたり、住めなくなってしまう大きな傷を負っておられます。暑い中で作業して少しでもお役にたちたいと思っていましたが、代わる代わるでも引き続き継続的な支援が必要であると思いました。現地に行けなくても支援できることはあります。いつか東海豪雨の時に助けてもらったように、また今後起きると予測されている東南海地震の時に力になれるように日々考えていきたいと思えます。

